

松本城を後世に残すために

松本城周辺の史跡

松本城は、大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の 5 棟が国宝に指定されている。しかし、最盛期の松本城は、いくつもの櫓や堀、石垣、門などが複雑に入り組んだ城郭であった。1930 年、これらの建造物の多くが国指定史跡に指定された。

現在の松本城の敷地は、主に本丸と二の丸の部分である。江戸時代（1603-1867）には、城の周囲にさらに広い三の丸があり、南の大手門（現在の四柱神社付近）まで続いていた。明治時代（1868-1912）に入り、急速な近代化が進む中、行政は広大な城の敷地にもっと有効な使い道があるのではないかと考えた。そして、堀を埋め、土塁を平らにして、三の丸を公共の都市空間として整備した。

昭和時代（1926～1989）の 1930 年、本丸と二の丸は国の史跡に指定された。しかし、敷地の大部分には裁判所や学校などの保護対象外の建造物が残っていた。その後、城跡は現在の松本城公園として整備され、歴史的風致を守るためにこれらの施設は移築された。堀の部分はほとんど残っていないが、一番外側の堀の一部と土塁の一部も国指定史跡として保存されている。

下の画像は、1728 年に作成された城下町の絵図と、2004 年に作成された都市計画用の地図を重ね合わせたものである。現在、埋め立てられた外堀と一番外側の堀の大部分を住宅や商業施設が占めている。

史跡の保存

松本城は、江戸時代末期の 1867 年、多くの建物が取り壊された。残された建物は、城内の 5 つの建物と二の丸御殿、そして二の丸南隅の天守閣である。しかし、二の丸御殿は 1876 年に焼失し、東北の櫓も取り壊され、天守と堀の一部が残るのみとなった。

1950 年代には 5 棟の天守群の大修理が行われ、黒門や内堀の一部も復元された。これらの改修工事と、その後の国指定史跡の工事では、1850 年～1860 年代の外観を復元することを目指した。このほかにも、1960 年に黒門、1999 年に太閤門が復元された。松本城は国宝の天守だけでなく、国指定史跡も含めて、研究者、専門家、地元関係者が一体となって保存に取り組んでいる。

松本城の石垣は、400 年以上の歴史があるが、時に石垣の一部が膨張したり、崩れたりすることがある。この石垣を補修することは、城を後世に残すための重要な取り組みだ。2014 年には、3 年前の地震で被害を受けた埋門付近の石垣の一部を補修した。その際、二の丸御殿跡の西側でも、近くのケヤキの根で壊れた堀の一部が修復された。江戸時代の堀の修復は、かなりの時間と費用がか

かるが、国や県の補助によって実現されている。

現在、1919 年に埋められた外堀の南側と西側を復元する大プロジェクトが進行中だ。このように、19 世紀の城の姿を取り戻すための努力が続けられているのである。